

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度		S46~	
総合計画	大項目	基本目標	04 もてなしの心とたくましさのあるまちづくり
	中項目	基本施策	03 個性あふれる観光のまちづくり
	小項目	施策	01 観光
事務事業名		02	観光団体等支援事業
		問	担当課(室) 商工観光課
		合	職・氏名 観光係長 山台 智子
		先	電話 64-1832

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	観光関連団体
目的(何のために)	観光案内サービス、観光PR活動の推進に取り組む団体等に、補助金を交付することにより、団体の目的達成のための支援をする。また、観光施策の推進のためには官民の相互協力が不可欠である。
行政活動(どのような方法で)	備前市観光協会、日生町観光協会、吉永観光協会への補助(観光ボランティア育成事業、観光マップ作成事業、イベント開催事業など)、和意谷史跡保存会、八塔寺ふるさと村運営協議会助成
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	観光団体等の会員の増加

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	補助団体数	団体	5	5	5
動	会員数	人	413	399	384
	補助金額	千円	7,532	5,180	4,228
実	直接事業費	千円	7,532	5,193	4,239
	必要人員	人	0.37人	0.07人	0.04人
績	事業費計	千円	10,909	5,722	4,653
	国・県・市・その他	千円			
受益者負担比率		%			

結果指標					
結果指標①	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	会員数/人口	説明			
結果指標②	結果指標量	%	1.01%	1.00%	0.97%
	対前年比	%	-	98.2%	97.5%
結果指標③	活動コスト	円	10,909,000	5,709,000	4,653,000
	単位当たりコスト	円	26,414	14,308	12,117

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
観光協会等会員の人口比	目標値(A)	1.10%	1.10%	1.10%	1.10%
	実績値(B)	1.01%	1.00%	0.97%	到達目標年度
	達成率(B/A)	92.23%	90.55%	88.28%	平成22年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
「観光協会等の活動が、会員の増加に繋がり観光振興に結びついているのか？」判断材料として人口比率を用いる。					

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	C
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	観光協会等は、観光振興を推進していく上で欠くことができない。観光協会は、現在も合併前の各市町単位で存続しており、今もなお、地域性や活動内容に格差がある。本来は、観光窓口を一本化することが望ましい。前段階として、3団体の密な連絡が取れるよう調整をしていきたい。
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	観光協会3団体に対して補助を行っていることは非効率的である。近年、補助金の削減は必至であるが、そうした状況下においても各団体において自主的な活動を行っている。しかしこうしたことにも限界があるため、やはり今後は、統合を考えたるをえない。
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> C
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	観光協会等は、観光振興を推進していく上で必要な団体であるため、補助を行うことは有効性がある。今後は、整理統合を含め検討する必要がある。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

平成21年度の状況		1.00%		1.10%	
目標値	結果指標量①	結果指標量②	成果指標量	休止	廃止・完了
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合
説明	観光協会の統合は今後の課題であるが、性急にことを進めることは避けるべきである。				

総合評価		評価区分<A~E>	C
観光協会の統合の必要性は十分認識しているが、地域性と独自性を活かしつつ一つのものにまとめることの困難さがある。今後、時間をかけながら慎重に検討すべきである。			

平成22年度以降の方向性・内容		1.00%		1.10%	
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合
説明	効率性から見ても、観光協会3団体の統合は必至である。調整に時間を要すると思うが推進していくべきである。				
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果	
改善がある場合	効率性	観光協会の統合を図る。	将来	効率的な財政支出	
	有効性	観光窓口の一本化	将来	効率的な運営	